

平成22年度事業報告書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

特定非営利活動法人 NPO福祉用具ネット

1 事業の成果

(1) 地域と行政・大学・NPO と連携しながら福智町の介護予防に関する取り組みについて

福智町高齢者の体力測定は5年目、最終年度として2ヶ月間実施しました。これまで延べ1,505名の体力測定を実施したことになります。

西九州大学村田伸教授を中心に、福智町・福智町社会福祉協議会・西九州大学・長崎大学などの研究者等とともに、NPO福祉用具ネットも参加し研究チームとして継続的に取り組んできました。

この調査を通して確認できたことは、昨年と同様、運動を習慣的に行っている高齢者が半数を超え、運動を行う準備段階の高齢者を含めると、約8割が健康の維持増進を考えていることが分かりました。

一方課題もあります。これまでの調査対象は福智町で定期的開催されているふれあい交流に参加している人が対象です。3町の合併前に積極的にふれあい交流に取り組んできた旧方城町は多くの高齢者が体力測定を受けてきましたが、他の地域は徐々に拡がりを見せているもののまだまだすべての地域の高齢者の調査には至っていません。福智町全体として体力測定を行い、地域の高齢者の健康増進への意欲が高まり、介護予防に繋がることを願っています。

(2) 福祉用具や住宅改修、介護相談並びに開発に関する相談について

本NPOの事業の中で企業からの福祉用具の開発相談が最も多く、今年度も12製品(8の企業団体)の福祉用具開発の相談をうけました。定期的開催される開発会議への出席や事務局への来所による相談、電話やメール等によるものなど関係企業と連携を頻繁にとりながら開発支援を行ないました。

特に、開発協力をさせていただいた、尿吸引ロボ「ヒューマニー」の使い方に関する相談内容が1番多くありました。ホームページや情報誌「ささえ」などで積極的に使い方に関する情報を発信しながら個別の電話相談や訪問相談による対応を実施しました。

住環境整備に関する主な相談は2件で数回の訪問を実施しました。

福祉用具の選び方・使い方、介護相談なども会員からの電話相談を中心に対応いたしました。

リハビリの助言が必要な事例相談では、会員の専門職ネットワークに助けをいただきました。

介護施設や在宅でのシーティングや移動介助技術、福祉用具の使い方に関する相談なども訪問指導も数多く行ないました。

(3) 共同開発品の販路拡大支援及び開発品の検証に関する受託事業について

開発品の検証など、企業からの受託事業9件について実施しました。共同開発および開発協力を携わった製品の販路開拓に向けた支援も今年度の事業内容の中で重要なテーマとして取り組みました。

・福祉用具展示会出展

11月11日から3日間、北九州市で開催された西日本国際福祉機器展では、展示場事務局の協力でN

PO福祉用具ネットのブースを確保していただきました。会員企業でこれまで開発支援を行なった企業8社と福岡県立大学福祉用具研究会、農協共済別府リハビリテーションセンターと連携して参加し、福祉用具の試作品や新製品を出展しました。多くの来場者にアピールする機会を得ました。

・開発品のモニター試験

企業から依頼された試作品の実用モニター試験は、会員ネットワークを活用して福岡県内の在宅介護現場や介護施設などに協力していただきました。その結果、より素晴らしい製品への改良・改善に向けて寄与できたと思います。

・販路拡大支援として、開発協力品については、現場での検証結果から判明した問題点の対策案を作成し、それらの情報発信のために関係企業と協力して広報活動にも努めました。また現場に上手な使い方に関する情報を伝えるために九州地区(鹿児島・大分県3回・熊本・佐賀3回・長崎3回・福岡県内)の販売店や専門職を対象にした研修会に出向きました。

また、ホームページや情報誌を上手に活用して情報を発信することにも努めました。

新しく開発された福祉用具が広くユーザーの皆さんに正しく理解され、上手に活用できるように支援することは、NPO福祉用具ネットの大切な役割のひとつです。特に開発段階から関わっている製品については他のどこよりも製品を理解しており、開発のメーカーとも連携できることは大きな強みでもあります。

(4)福祉用具・住環境整備、ケアプラン作成や介護の質の向上のための研修会や研究会の開催について

今年度の研修会は西日本国際福祉機器展でのブースセミナー開催も含めると下記のように多くの研修会を実施できました。特にオムツフitter3級の研修会は京都のむつき庵様との共催で実施することができました。参加者は九州各県や広島、岡山、山口、東京など遠方からの参加者があり、NPOの活動を多くの方に知っていただけるよい機会にもなりました。これまで2回にわたってオムツフitter研修会を開催致しました。私達の地域にも排泄ケアにより詳しいオムツフitter3級の合格者が多く誕生したことになります。地域の介護のレベルアップにも貢献できました。

また、福祉用具研修会として、新製品である尿吸引口ボヒューマニーの使い方に対する研修会も無料で田川市と久留米市でも開催しました。

福岡県立大学福祉用具研究会は12年目として継続できたことは個々の会員の意識の向上とネットワークの連帯感が定着したものだと思います。今年のテーマは「車いすのシーティング」について学びました。リハ職、看護・介護職、福祉用具専門相談員などの研究会のメンバーが、毎回平均20名参加がありました。この研究会を通して、福祉用具に対する認識を共有できる仲間が少しずつ増えていくことを実感できました。

研修会の開催内容は以下の通り。

実施した研修会と参加人数

5月22日 ヒューマニーの上手な使い方 124名 (福岡県立大学共催)

6月12日 接食・嚥下障害のある方への対応についてパート1 基礎編 57名 (福岡県立大学共催)

- 6月14日 久留米出前講座 新しい排泄ケアの提案 42名 (九州ホームケアサービス共催)
- 7月17日 医療依存度の高い方の介護のポイント 47名(福岡県立大学共催)
- 8月21日 摂食・嚥下障害のある方への対応についてパート2 応用編 48名(福岡県立大学共催)
- 9月17日・18日 オムツフィッター3級 47名 (むつき庵共催)

11月11日から13日の3日間 西日本国際福祉機器展ブース内セミナー開催

協力:農協共済別府リハビリテーションセンター・医療法人康和会・佐賀大学松尾清美准教授
ユニ・チャームヒューマンケア(株)・(有)三電

3日間のセミナーの開催内容の詳細は以下のとおり

・11月11日

新しい排泄ケアの提案 尿吸引ロボ ヒューマニーの上手な使い方
ヒューマニーの使い方 個別相談
ロボットスーツ「HAL」でリハビリサポート
腰痛対策講座～負担の少ない介助技術～
腰痛対策講座～福祉用具を活用した介護技術～
摂食・嚥下障害の方の介護のポイント
口腔ケアの実際

・11月12日

摂食・嚥下障害の方の介護のポイント
新しい排泄ケアの提案 尿吸引ロボ ヒューマニーの上手な使い方
ロボットスーツ「HAL」でリハビリサポート
腰痛対策講座～福祉用具を活用した介護技術～
腰痛対策講座～負担の少ない介助技術～
床ずれ防止用具の選び方

・11月13日

トランスファーボードの使い方 個別指導
新しい排泄ケアの提案 尿吸引ロボ ヒューマニーの上手な使い方
ロボットスーツ「HAL」でリハビリサポート
リフトの使い方 個別指導
いつまでも美味しく食事をいただけるためには 介護職のための口腔ケア講座

今年度を実施した福祉用具研究会の参加人数および内容は以下の通り。

福岡県立大学福祉用具研究会と共催で開催

テーマは「車いすとシーティング」について開催しました。内容、参加者数は以下の通り。

- 5月13日(18時～20時) 25名参加 内容 「車いすと姿勢についての観察の視点をもつ」
- 6月17日(18時～20時) 17名参加 内容 「車いす・車いす用クッションについて」
- 7月20日(18時～20時) 20名参加 内容 「動作と車いすの環境を考える」
- 8月17日(18時～20時) 22名参加 内容 「車いすの種類姿勢保持の考え方」
- 9月13日(18時～20時) 19名参加 内容 「事例検討」

10月20日(18時～20時) 16名参加 内容「事例検討」

11月17日(18時～20時) 21名参加 内容「東京国際福祉機器展の動向についての報告」及び
「介護保険制度における最新の福祉用具について伝達・事例の経過報告」

(5)住環境整備に関する啓発事業として福祉住環境コーディネーター(FJC)協会からの受託事業について

最新の福祉用具情報が展示されている展示会場や先進的なバリアフリー化施設やユニークな取り組みをしている介護施設などの見学会を、計7回に亘り企画・実施しました。

詳細は以下のとおり。(参加者は福祉住環境コーディネーター協会会員)

FJC協会見学会企画

4/24 大分社会福祉介護研修センター(大分市)18名

5/10 有園製作所(北九州市) 17名

7/5 山口夢のみずうみ村(山口市) 9名

8/4 シーホネンスショールーム(朝倉市) 5名

9/8 TOTO工場と歴史資料館(北九州市) 7名

10/9 福岡県クローバープラザ(春日市) 4名

12/11 佐賀介護普及実習センター(佐賀市) 4名

(6)バリアフリーについての相談について

会員からの依頼で、「バリアフリーコンパクト住宅の開発」と「バリアフリーコミュニティ街づくりの開発」について、アドバイザーとして会議に出席。独居又は老夫婦世帯の要介護状態を想定したバリアフリー住宅やコミュニティや防災・防犯に優れた環境エリアの構築に向けた助言、および介護や福祉用具を活用できる住宅設計について助言を行ないました。また、介護施設の改修相談も受け、専門職と連携して対応いたしました。

(7)情報誌やホームページを利用して情報発信および出版物の発行事業について

情報誌「ささえ」は、執筆いただいている関係者の協力でこれまでに延べ34号(1月発行済まで)発行することができました。一回の発行部数500部/年4回発行。順調に継続することができています。

ホームページの更新は随時実施して、情報誌「ささえ」や研修会情報、共同開発品に関する福祉用具情報を公開してきました。

また、今年度は熊本学園大学の協力を得て、豊田謙二理事長の編集で「ウエルビーイングからの生活環境づくり」をナカニシヤ出版より出版。平成10年から活動している福祉用具研究会の発足からNPO福祉用具ネットの誕生までについて、会員の皆様に執筆協力を依頼して発行できたものです。

(8)第20回日本障害者スポーツ学会事務局の支援について

平成23年1月29日・30日に国立大学法人 佐賀大学医学部附属地域医療科学教育研究センターで開催された第20回障害者スポーツ学会のお手伝いをさせていただきました。大会事務局として開催の準備から当日まで、NPO福祉用具ネットの会員数名にボランティアとして協力いただき、大会の運営をサポートいたしました。学会参加者は機器展示も含め、120名の方が全国から集まりました。

(9) 日本機械学会 第23回バイオエンジニアリング講演会 公開シンポジウムで発表

平成23年1月8日14時45分～17時30分 熊本大学で開催された日本機械学会 公開シンポジウムに NPO福祉用具ネット理事長をコーディネーターとし、経済産業省医療・福祉機器産業室の竹上室長をアドバイザーとして、これまで共に開発に関わった関係者3人で、「利用者視点からの福祉用具開発 - 生活の快をサポートする -」のテーマで発表し、意見交換を行ないました。これまで、NPO福祉用具ネットが開発に深く関わり製品化となった2つの商品を改めて振り返り、開発者の立場、ユーザーの立場でシンポジウムを行いました。

各事業別実績は以下の通りです。

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(円)
福祉のまちづくりに関する事業	福智町地域再生計画に関する事業 「介護予防」のための介入研究	8月から 9月まで	福智町	15名	福智町高齢者306名	62,399
福祉用具及び住環境に関する相談事業	電話・面接による事例相談 福祉用具の情報提供 合計100件以上	随時	事務局	常勤1名 含む5名	介護サービス事業所や施設関係者や要介護者とその家族など若干名	552,313
	開発に関する相談 8企業・団体	随時	事務局 他	常勤1名 含む3名	関係の開発者若干名	
福祉用具の活用及び住環境整備に関する啓発・研修事業	新しい排泄ケアの提案 尿吸引ロボヒマニーの上手な使い方 合計5回開催	4月 6月 11月	田川市 久留米市 北九州市	常勤1名 含む3名	介護・医療・福祉専門職256名	444,623
	リフトの使い方 3日間合計3回開催 トランスファーボードの使い方3日間合計3回開催	11月	北九州市(西日本福祉機器展)	6名	介護・医療・福祉専門職180名	

	床ずれ防止用具の 選び方	11月	北九州 市(西日 本福祉 機器展)	5名	介護医療福祉専 門職および要介護 者と家族・学生50 名	
	福祉住環境コーデ イナー協会受託事 業 先進的施設見学 会の企画 合計7回	4月から 12月 7箇所 実施	山口 北九州 大分 佐賀 福岡市 県内	常勤1名	介護・医療・福祉・ 建築関係者など福 祉住環境コーデ イナー会員 64 人参加	
	福祉用具研究会 7回シリーズ テーマ 車いすとシーティング 福岡県立大学福祉用 具研究会との共催	5月から 11月ま で7回 実施	福 岡 県 立 大 学 内	3名	介護・医療・福祉・ 建築など関係者 延べ140名参加	
福祉用具の 活用、供給及び 開発並びに住環 境整備に関する 調査研究事業	共同開発品の販路 拡大支援3社	随時	全国	常勤1名	開発者など企業関 係者若干名及び ユーザー多数	3,494,455
	西日本国際福祉機 器展出展にて開発品 の展示紹介	11月 3日間	北九州 市	常勤1名 含む30名	介護・医療・福祉・ 建築など関係者多 数	
	開発品に関わる受 託事業8件	随時	全国	常勤1名	開発企業関係者 若干名	
	福祉用具の供給	随時	県内	常勤1名	要介護者や身体 障害者など若干名	
ケアプラン「介 護サ - ビス計 画」の作成を支 援する事業	電話相談	随時	事務局	常勤1名	介護支援専門員 や家族など若干名	29,174
介護の質を向 上させるための 調査・研修・啓 発事業	摂食・嚥下障がい のある方の介護のポ イント (基礎編・応用編)	6月 8月	田川市	常勤1名 含む5名	医療・介護・福祉 専門職104人	611,300
	医療依存度の高い 方の介護のポイント	7月	田川市	常勤1名 含む3人	医療・介護・福祉 専門職48人	
	オムツフitter 3級	9月	田川市	常勤1名	医療・介護・福祉	

	むつき庵との共催	2日間		含む7名	専門職 48人	
	ブースセミナー 口腔ケアの実際 いつまでも美味しく 食事をいただけるため には介護職のための 口腔ケア講座 摂食・嚥下障害のあ る方の介護のポイント 3日間	11月西 日本展 示会3日 間	北九州 市	5名	医療・介護・福祉 専門職200人参加	
	腰痛対策講座 負 担のすくない介助技術 2回実施	11月西 日本展 示会3日 間	北九州 市	2名	医療・介護・福祉 専門職60人参加	
安全な生活に 向けたバリアフ リーの調査と推 進事業	バリアフリー介護住宅 開発事業の助言 介護施設改修相談	随時	筑豊地 域	常勤1名	福祉・建築関係者 行政担当者・大学 関係者 若干名	23,332
情報誌及び 出版物の発行 に関する事業	情報誌の定期的な 発行及びホームペー ジへの公開	年に4回	事務局	常勤1名 含む10名	医療・介護・福祉 専門職等不特定 多数	478,932
	出版物の発行・販 売(移乗マニユア ルの販売)	随時	事務局	常勤1名	医療・介護・福祉 専門職29人	
	ウエルビーイング からの生活環境づ くり出版	昨年 から 継続 で 7月 まで	事務局	常勤1名 含む13名	医療・介護・福祉 専門職多数	

(2)収益事業

該当なし